

我が校の強み弱み分析・評価シート

『 調査結果による強み・弱み 』

<学習面>

【正答率より】

○国語科、算数科とも全調査項目において、全国平均値を上回る正答率でした（下のグラフ◆参照）。2教科ともに、各問題に対しての正答率が高だけでなく、無解答率も非常に低く（無解答者が少ない）、粘り強く最後まで解答しようとする姿が見られました。

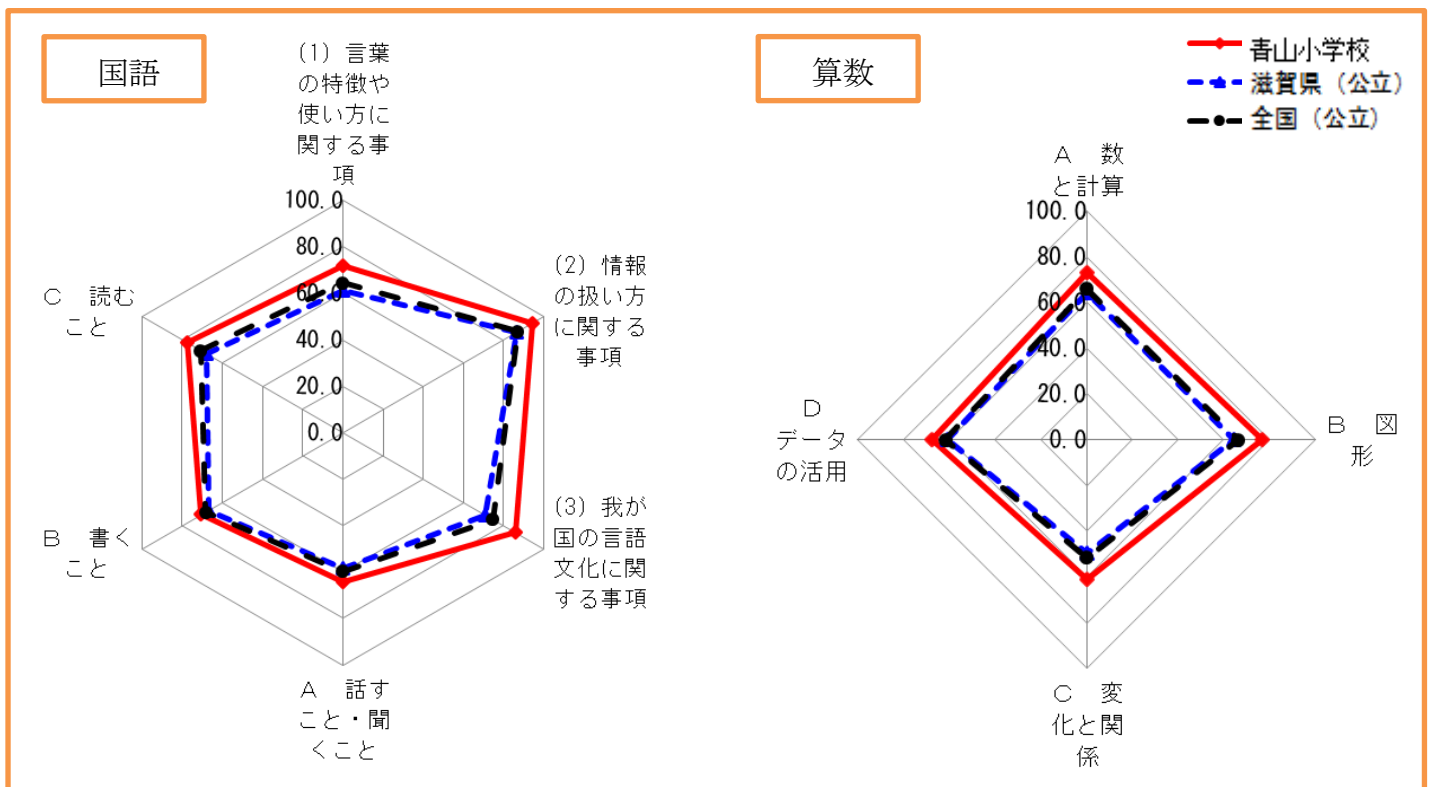
●国語科の「書くこと」では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題において、全国平均正答率を上回っていたものの、5割強程度の正答率でした。

●算数科の「変化と関係」では、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題において、全国平均正答率を上回っていたものの、4割弱程度の正答率でした。

◆学習指導要領の内容の平均正答率の状況◆

※本校の傾向をみるためのものであり、他校と比較できるものではありません。

（文部科学省からのデータをそのまま掲載しています。）



<生活面>

【質問紙調査より】

○生活習慣に関する項目では、肯定的な回答が多く、基本的な生活習慣が身につけていることが伺えました。

○「自分にはよいところがあると思いますか」や「人が困っている時進んで助けていますか」の設問では、県や全国平均に比べて、肯定的な回答が多い結果でした。

- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の設問において、「そう思う」と回答した児童は4割程度で、全国や県と比較して高いポイントでした。
 - 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問において、「そう思う」と回答した児童は全国や県と比較して高いポイントであったものの、3割程度にとどまりました。
 - 学習習慣の項目では、「学校の授業時間以外に、普段どれくらいの時間、勉強しますか」の設問では、平日1時間以上と答えた児童が6割以上いました。基本的な学習習慣が身につけている児童が多いことがわかりました。
 - 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の設問に対して、「当てはまる」と答えた児童は4割程度で、「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童を含めると、8割を超える結果でした。
- また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の設問に対して「当てはまる」と答えた児童は8割程度で、「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童を含めると、9割を超える結果でした。

【全国学力・学習状況調査をもとにした重点取組事項】

○学校教育目標の実現に向けて

学習習慣の定着、生活習慣の確立など、本校児童の強みを最大限に生かしながら、教育課程を常に見直し、学校教育目標である「じっくりと考え、考えたことをもとに行動をおこす子ども」の育成を図っていく。

○授業改善

様々な情報から必要な情報を選んで自分の考えをまとめたり、自分とは違う意見を受け入れてよりよいものをつくり出したりする活動を意図的に多く取り入れることで、児童の考えを広げたり、考えを深めたりできるように努める。具体的には、授業研究会等を通して、グループでの意見交流や話し合い活動の効果的な活用について検討し、集団で学ぶよさを感じられるように努める。また、授業と関連した家庭学習の取組やタブレット端末の有効活用についても推進していく。

○コミュニケーション力や自己有用感を高めるために

学級活動においてソーシャルスキルトレーニングを教育課程に位置づけたり、特別活動では、学校行事等の中で異学年と交流できる活動を仕組んだりするだけでなく、学校生活全般において、自己表現の場やボランティア活動を通して誰かの役に立つ喜びや人とつながるよさを感じられるようにする。

○家庭・地域・学校の協働・連携

学校運営協議会を組織的・実効的なコミュニティースクール実現の場となるよう、意見交換や情報共有を密にし、「家庭」「地域」「学校」が一体となった教育活動を図る。